巻　頭　言

表面科学会が何故必要か？

二　瓶　好　正

先々月の本誌巻頭言において杉田会長が本会の法人化について論じられた。その後理事会で法人化に向けて準備を進めることが決定された。ここでは，何故本会が存在するに値するか考えてみたい。本会の永続的な存続が是非とも必要であるならば，本会が任意団体ではなく，社団法人として活動を行うことは，本会の発展過程として必然的帰結であると考えるからである。

まず，「何故学会が必要なのか？」その理由について検討してみよう。

1）ある分野に関し興味を持つ研究者・技術者が集い，共通の問題意識を基に，アイデアと情報を共有しつつ，相互に研究と技術の発展を目指すため。（共通の問題意識，情報の共有とコミュニティーの形成）

2）自分の専門分野の情報を得，かつ自分の研究成果を発表すると共に国際的活動の拠点とするため。（情報獲得と情報発信の場）

3）研究分野の体系化と知識ベース化を目指し，その成果を基に若手の育成に資するため。（知識の体系化と人材育成・教育）

4）研究分野の研究者・技術者の組織化を行い，専門家集団として社会貢献を行うため。（人の組織化と専門家集団としての社会貢献）

5）会員の成果を評価し，社会的に顕彰することにより，学術的価値基準と評価尺度を社会に明らかにするため。（個人業績の社会的顕在化，学術的評価基準の明示）

6）関連する研究・技術分野をある程度広く包含することにより，異分野間の研究・技術交流とシナジー効果を促進すると共に国際的交流の場を提供し，全体として持続的発展を目指すため。（研究交流・国際交流の促進と研究分野全体の持続的発展）等をあげることができる。

日本表面科学会は物理と化学において表面科学を研究する有志により創設され，明年創立20周年を迎える我が国で唯一の「表面科学に関する総合学会」である。現在では，個人・法人会員合わせて1500人の規模となり，個人会員の属する専門分野は，物理，化学，生物，機械，電気・電子，分析等の諸分野の基礎と応用のすべてを網羅している。また，講演大会・研究会・国際シンポジウムの開催，月刊の論文・会員誌の発行，基礎講座・セミナー開催による人材育成事業，表彰事業，全国各地区の支部活動等，上記学会活動の要件として必要欠くべからざる事業を継続的かつ発展的に行ってきている。また，本会の運営に多くの有志会員がボランティア精神を発揮してご尽力頂いていることも大きな特徴である。

以上のような実績と，「表面科学」がまだまだ大きな発展の可能性を秘めていることから，将来とも本会の存在意義は極めて大きいのではなかろうか。会員諸氏のご協力を頂き，法人化の実現と22世紀までも展望した，本会のさらなる発展を心から願ってやまない。

（副会長，東京大学生産技術研究所）